



2018年10月1日発行(毎月1回1日発行) 第769号 1977年9月8日第三種郵便物認可

<https://nkbp.jp/MONO>



特集 人手不足にキワ! 協働ロボット



特集 2

宇宙ビジネス
日本の逆襲



挑戦者

トヨタ自動車 副社長
河合 满



「協働ロボの活用ノウハウを共有し利用を広げたい」 7月に発足したRSI業界団体トップの意気込み

ロボットシステムインテグレーター(RSI) 同士の関係を強化したい——。そう考えて2018年7月に「FA・ロボットシステムインテグレータ協会*」を設立しました。産業用ロボットのシステムインテグレーションを担う企業は、1社1社の規模が大きくありません。そこで、全国規模でRSIのネットワークを築き、個々の企業の能力に磨きをかけたり、RSI業界としての発言力を高めたりしたいと考えています。協会の会員数は既に140社を超えており、ネットワークの輪は広がり続けています。

「匠の業」を学び合う場を造る

RSIは、経験してきた業界・業種・工程ごとに、各社がそれぞれ「匠の業」ともいるべきノウハウを蓄積してきています。しかし、ノウハウを持つRSIが全国各地に分散しているため、業界全体としてはそのノウハウを生かし切れていないのが実情です。協会の設立を機にRSI同士が関係を深め、知識や知恵を学び合いたいと考えています。

協働ロボットの運用手法についての議論を深めたいとの思いもあります。安全柵が要らない協働ロボットは省スペースで設置できるため、これまで産業用ロボットを利用してこなかった生産現場でも導入が進むと思います。さまざまな運用の仕方があるはずで、これまでにないアイデアも求められるでしょう。そんな時もRSI同士が話し合えば、新たなアイデアが出てくるはずです。

確かにRSI間の競争領域と協調領域をどう切り分けるかという課題はあります。しかし、部分的にでもノウハウを共有できれば、自動化できる生産現場が広がり、市場も大きくなります。人手不足や生産性の低迷に悩んでいる企業の助けになり、日本全体の生産性向上にも寄与するでしょう。

三明機工代表取締役社長/
FA・ロボットシステムインテグレータ協会会長

久保田 和雄氏

くぼた・かずお：1975年、武藏工業大学工学部機械工学科卒業。三明機工の製造部長、常務を経て1996年にから代表取締役社長。

* FA・ロボットシステムインテグレータ協会は、日本ロボット工業会の特定事業委員会である。

ロボットメーカーに対等の立場で要望したい

協会設立に先だって個人的に刺激を受けた出来事があります。スイスABBが世界各地で開催している「Value Provider Conference」と呼ぶイベントです。各地のRSIらが一堂に会し、生産現場向けのロボットシステムの開発について話し合います。数年前に私も欧州での同イベントに参加しました。RSIが心血を注いで開発した生産ラインを会場で見て、大変勉強になったのを覚えています。

印象的だったのはイベント会場でRSIらがABBに対してロボットの改善要望を出していたことです。RSIとロボットメーカーがある意味対等の立場でロボットシステム全体の改善を進めているわけです。これに倣い、我々の協会でもロボットメーカーに意見を伝える場を実現していきたいと思っています。

将来の話になりますが、RSIのネットワークを世界に広げていけるといいですね。実は私が代表取締役を務める三明機工では、タイのRSIや技術者などと関係を深めています。例えばタイの若手技術者に、生産現場の自動化を実現するためのノウハウや知見などを教えています。協会の会員はいまのところ日本企業だけですが、将来は世界各地のRSIと関わって、切磋琢磨できるような団体になりたいですね。国ごとの特色などを話し合えると面白いんじゃないでしょうか。

